

2015年度全日本少年サッカー大会 12ブロック代表決定大会レポート

表記大会のベスト8決めの試合と準々決勝が、快晴の空の下10月18日(日)に日野市北川原グラウンドで行われた。A B 2つの天然芝ピッチで12試合が行われたが、中央大会への出場権をかけた準々決勝の中から、八王子のチーム同士の対戦となった「ARTE 八王子 FC Jr vs なかの SC」と「みなみ野 SC vs シルクロード SC」の2試合をレポートする。

$$\text{ARTE 八王子 FC Jr} \quad 4 \left\{ \begin{array}{l} 2-0 \\ \\ 2-0 \end{array} \right\} 0 \text{ なかの SC}$$

ARTE は3-3-1又は3-1-3、**なかの**は2-4-1または2-2-3のフォーメーションでDFラインの人数に違いのある布陣であった。立ち上がりは両チームともなかなかシュートまで持ち込むことができなかった。やっと2分に**ARTE** 9番が中盤で軽快な引き技で相手をおかわし、ファーストシュートを放ったが**なかの** GKにキャッチされた。さらに3分30秒、**ARTE** 前線の6番がハーフウェイラインで素早く前を向き、左サイドの10番とパス交換をして10番が抜け出した。**なかの**の長身DF 55番が対応したが、10番は中に切り返しミドルシュートを放った。このシュートは惜しくもゴールの枠をかすめて外れてしまったが、6番と10番のコンビネーションの良さを示すプレーであった。4分半、**なかの**の左サイド92番が縦への突破を試みCKを得た。このCKではシュートを放つことができなかったが、直後の5分、**なかの**の右サイドからの大きなクロスが再び92番に渡し、92番がファーストシュートを放った。7分**ARTE** 左サイドの10番がスピード豊かなドリブルで縦に突破したが、惜しくもゴールラインを割ってしまった。続いて8分、**ARTE** 10番は左サイドから再び鋭いドリブルでゴールに迫り、**なかの** GKが出てきた瞬間に低いシュートを放ち、先制点を奪った。

ARTE 1番の女子GKは、**なかの**の裏パスに判断良く飛び出し、勇気のあるプレーでピンチを度々防いでいたが、11分キャッチしたボールを素早いスローイングで左サイドの13番へ繋いだ。13番は中盤の中央に下がってきた10番にパス。10番は綺麗なハーフターンで前を向き、素早いドリブルでハーフウェイラインを超え、前線にいた7番へ繋いだ。このプレーは得点には繋がらなかったが、GKからボールを丁寧に繋いで相手のバイタルエリアに迫った素晴らしい攻撃であった。勝負にこだわると、GKは大きく相手陣地までパントキックを蹴り込むことが多いが、ジュニア年代の指導者には、是非このプレーのようにボールを大切にす攻撃にこだわって指導していただきたい。15分、再び**ARTE** 10番がハーフウェイライン付近でボールをもらい横に流れた際に、右サイドDF 12番が「逆！逆！」と声を出しながら上がってきた。10番は12番の足元に繋ぐのではなく、12番の前方のスペースにミドルパスを出し、**なかの**の左サイドを深くえぐった。このプレーも得点には繋

がらなかったが、素晴らしいサイドチェンジとオーバーラップであった。**ARTE** はボール保持者の名前を周辺のプレーヤーが呼んでパスを要求しており、その際に何人もが腕と手のひらで欲しい所を示していた。こうしたプレーの積み重ねで、DFラインや中盤で数多くの横パスを繋ぐプレーが見られ、右サイドDFの12番だけでなく、左サイドDFの13番も度々オーバーラップを仕掛けていた。味方の名前を読んでパスを要求すること、さらに腕と手のひらで欲しい位置を示すことが試合の中で自然に出るようになるためには、普段の練習の中から繰り返しこだわって指導していかないとできない。指導者の皆さんには、基礎的な練習の時からパスをもらう方が予備動作を入れ、腕と手のひらで欲しい所を示す習慣を子ども達に身に付けさせていただきたい。

前半終了間際の20分、**ARTE** が右からのCKを獲得した。6番のキックを**なかの** GKがパンチングで逃れようとしたが、クリアし切れず、**ARTE**10番がこぼれ玉を拾い、振り向きざまにシュートをゴールに突き刺した。こうして**ARTE** が2点をリードして前半を終えた。

ARTE は前半で既に2人を交代させていたが、後半のスタートでGKを20番に交代させ、15番と14番も投入した。更にGKは後半の半ばに21番に交代し、中心プレーヤーであったトップの6番も11番と交代した。リードした中とは言え、多くのプレーヤーに公式戦を経験させようとする意図が見られた。

後半4分、**なかの**の左サイドにフィードされたパスを**ARTE**6番と**なかの**8番(?)が追った。**ARTE**6番はしっかりと相手に身体を当ててボールを奪い、右CKを得た。この6番は上背のあるプレーヤーではなかったが、攻撃の起点となることが多く、このシュルダージャーも素晴らしいプレーであった。8分にリードされていた**なかの**も反撃を試みる。中盤での**ARTE**の横パスをカットした最終ラインの55番が思い切って**ARTE**陣内まで長いドリブルで攻め上がったのだ。しかしこの攻め上がりを防いだ**ARTE**は、55番が上がってポッカーと空いたスペースに6番が流れてきて、縦パスを受け素早く前を向いた。**なかの**は2バックなので、そこに本来ならば右DFである24番がカバーに入ってきた。前を向いた**ARTE**6番は左からカバーに入ってきたこの24番の動きを見て、スピードを緩めずボールを縦に流し裏街道で突破しゴールに迫った。ここは**なかの**GKが思い切って飛び出して6番を止めたが、非常に見ごたえのある攻防であった。10分、**ARTE**陣へ左サイドを攻め上がった**なかの**92番にアクシデント発生、激しいぶつかり合いで(?)転倒し、プレー続行が不可能となった。18番が投入されたが、92番は前半から何度かチャンスを作っていただけに**なかの**はますます苦しくなった。15分中盤でボールを奪った**ARTE**10番が、**なかの**のプレーヤーをかわしながらゴールに突進し、シュートを決めハットトリックを達成した。勝負を決定づける3点目であった。更に17分には、15分に交代で入ってきた**ARTE**11番が中盤で右サイドに流れながらパスを受けて抜け出し、ちらっとゴールを見た上で逆サイドのポストの内側に当てる素晴らしいシュートを決めた。ダメ押しの4点目であった。**なかの**ではトップ下の10番が、中盤で逆サイドを観ようとする意識が高く、前半から「回せ！回せ！」とか

「ラインを上げよう！」とチームメイトへ意図のある声を出して、何とか **ARTE** の守備を崩そうとしていたが、**ARTE** の安定した守備陣を最後まで崩すことができず、そのまま試合が終了した。終始安定した試合運びだった **ARTE** が、ベスト4へと駒を進め中央大会への出場を決めた。

$$\text{シルクロード SC} \quad 6 \quad \left[\begin{array}{c} 4-1 \\ \\ 2-0 \end{array} \right] \quad 1 \quad \text{みなみ野 SC}$$

この試合の両チームは3-3-1又は3-1-3のフォーメーションであった。**みなみ野**のキックオフで始まったが、いきなり**みなみ野**の11番がドリブルでシルクのバイタルエリアまで攻め上がりシュートを放った。この11番は細かいステップで**シルク**ゴールに向かう突進力のあるドリブルを何度も見せてくれた。突進力がありながらもボールが足元から離れず、**シルク**のプレーヤーもこの11番のボールを奪うことに苦勞していた。11番にはこの特徴をさらに磨くとともに、パスの感覚も身に付けて大きく成長してくれることを期待したい。一方の**シルク**は1分、センターDFの11番が低く速いくさびのパスをトップの7番に入れた。このパスを受けた7番は、右サイドから押し上げてきた10番にワンタッチで丁寧に落とし、10番もワンタッチで逆サイドから上がってきた9番に大きく振った。そしてそのクロスを受けた9番が**みなみ野**ゴールの枠を捉えるシュートを放った。このシュートは**みなみ野**GKが素晴らしい反応で何とか弾いたが、流れるようなパスワークでシュートまで持ち込んだこの攻撃は、得点にこそつながらなかったが、個々のプレーヤーの“広い視野”“正確なパスとワンタッチコントロール”“パスの先を予測する素早い判断と戦術的理解”といった素晴らしいプレーが連動した結果で、**シルク**がチームとして非常に高いレベルに達していることを示していた。ところが先制点を奪ったのは**みなみ野**であった。キックオフ直後にキラリと光った11番は、2分にも右サイドでスローイングのボールを受け、素早く前を向き、細かいステップでシルクゴールに迫りシュートを放った。そして2分50秒、再びドリブルで**シルク**ゴールに迫り、ゴール前で**シルク**のDFをかわしてシュートを放ち先制点を奪ったのである。しかし、**みなみ野**がリードした時間はわずか1分間だった。3分50秒、**みなみ野**陣内で得たFKを**シルク**の7番が力強いキックで**みなみ野**ゴールに突き刺したのである。この7番は、左右のCKでもキッカーを務めていたが、全身を使った素晴らしいフォームから強いボールを蹴ることができていた。前線で良くボールを追い、ゴールへの意欲が非常に高く細かいパスも正確で、将来性を感じさせるプレーヤーであった。5分には**シルク**のセンターDF11番が、自分の前にスペースがあるとみるや一気にスピードに乗ったドリブルで右サイドに上がり、クロスを上げた。そのボールを**みなみ野**GKが弾いた所にトップの7番が飛び込んだ。多くのチームでセンターDFはセットプレー以外では上がってこない。また長いドリブルをすることは稀で、すぐに前線にロン

グキックを蹴ることが多い。しかし**シルク**の11番はドリブルやキックが巧みで、度々攻撃に参加していた。ジュニア年代ではポジションを固定することなく、様々なポジションを経験させて欲しいのだが、このDFラインからの攻撃参加を認める**シルク**のベンチワークは、ぜひ多くのチームに見習って欲しい。DFラインの誰かが攻撃に参加した際のリスクマネジメント（→誰がそのスペースを埋めるのか）を練習の中で確認しておき、DFのプレーヤーにもどんどん攻撃参加をさせて欲しい。6分、左サイドの**みなみ野**9番がスピードに乗ったドリブルで突破するが、シュートまでは持ち込めなかった。7分、ハーフウェイライン付近で**シルク**が間接FKを得た。ここでも7番がキッカーを務めたが、7番は直接**みなみ野**ゴールを狙ってしまい、ボールはゴールへ一直線に向かった。ここで**みなみ野**GKが触らずに見送れば、ボールがゴールに入っても**みなみ野**のゴールキックになったのだが、GKが思わず触ってしまい**シルク**の得点となってしまった…。このプレーは非常にもったいなかった。ここで持ちこたえれば、**シルク**の一方向的な試合にならなかったかもしれない。**みなみ野**GKにはルールの再確認を是非してもらいたい。主審は間接FKの際には必ず片手を垂直に上げるので、すべてのプレーヤーはFKの際に主審を観る習慣をつけてもらいたい。10分には、**みなみ野**の11番が再び巧みなドリブルでDFをかわしてシュートを打った。13分には、**みなみ野**の10番が粘り強いドリブルからシュートまで持ち込んだが**シルク**GKの正面であった。このように**みなみ野**も反撃はするのだが、単発で個人のドリブルに頼った攻撃となっていた。

15分、前半3分に交代で入ってきた**シルク**右サイドDFの12番が、自分の陣地深くに出されたボールをライン際まで追い、簡単に出してしまわずに止めて前を向いた。しっかりと状況を見た上で、ライン際で待つ10番に縦パスを繋いだ。10番は中央の8番に横パスを出して縦に走った。8番はチラッと逆サイドを観た上で前を向き、再び10番に縦パスを出した。10番は太腿のトラップで前方へボールを出し、スピードに乗って**みなみ野**ゴールに迫り、出てきた**みなみ野**GKを良く観て、低いシュートでGKの脇を抜いて3点目を決めた。このプレーに絡んだ3人はボールを大切にし、状況を自分で観て判断し、より優先順位の高い選択をしていた。この日の他の試合では、ベンチや観客席からコーチや保護者、関係者が、大きな声で子ども達にプレーの指示を出してしまい、子ども達が自分で判断することを邪魔する場面が時々見られたが、**シルク**のベンチや観客席からはそのような声は聞こえず、子ども達自身が判断していることがよくわかるプレーであった。（コーチや保護者からのサイドコーチングについては、昨年度のレポートの最後にも技術委員会からコメントさせていただいている。ぜひ昨年度のレポートも読んでいただきたい。）さらに18分には**シルク**10番が左からの大きなクロスを受け、**みなみ野**DFの頭を超してゴールに迫り、出てきた**みなみ野**GKの頭上も越すループシュートで4点目を奪った。この10番もボールコントロール技術、スピード、判断力に優れたプレーヤーで、将来性を感じさせた。謙虚に向上心を持ち続け、大きく成長して欲しい。こうして4対1と**シルク**がリードして前半が終了した。

後半**シルク**は、前線に16番、DFラインに13番を投入した。1分、**みなみ野**陣内で**シルク**の10番が味方の名前を呼び「〇〇落とせ！」と声をかけ、丁寧に落とされたボールを振り抜きロングシュートを放ったが、惜しくもゴール左に外れた。4分、**シルク**陣の深い位置での**みなみ野**のスローイングを7番が受け、**シルク**DFをアウトサイドでかわし、速いクロス**シルク**のゴール前にあげた。これは**シルク**GKが触ってCKに逃げた。これで得た**みなみ野**の右CKは逆サイドまで抜け、待ち構えていた**みなみ野**9番がシュートを放ったが、**シルク**GKの正面であった。5分に**シルク**がトップに20番を投入した。その際にそれまでトップで活躍していた7番が中盤に下がり、中盤でボールを左右にさばっていた8番が左サイドバックに下がった。ポジションチェンジが行われても**シルク**のプレイヤーは戸惑うことなく自然にプレーを続けた。普段から複数のポジションを経験していることが伺えた。11分、**シルク**の10番が右サイドを突破し、**みなみ野**ゴール前に低いクロスをあげたが、誰も触れずゴール前を通過してしまった。それに16番が何とか追いつき左サイドからマイナスボールを折り返し、待ち構えていた20番が5点目となるシュートを決めた。後半に投入された16番と20番の2人がしっかりと得点に絡んだのである。さらに11分50秒、中盤に下がっていた**シルク**7番がハーフウェイラインから一気にドリブルで突破し、そのまま6点目となるシュートを決め、ハットトリックを達成した。その後**シルク**は、一度ベンチに下がった9番を戻し、GKも交代させた。さらに21番、22番、2番、15番も次々に投入していった。前の試合の**ARTE**と同じくリードした中ではあったが、昨年に続いて**シルク**が多く選手に公式戦のピッチを体験させようとする意図が表れていた。交代した選手たちは皆、生き生きとピッチを駆け回り、21番はシュートも放った。昨年のレポートでも述べさせていただいたが、ジュニア年代での指導の目標は「個の育成」である。指導者の皆さんには「チームの勝利」を優先しすぎることなく、各チームで預かっている全ての子ども達の可能性を信じて、多くの子ども達に公式戦の緊張感を体験させていただきたい。試合はそのまま終了し、**シルク**がベスト4へと駒を進め、中央大会への出場を決めた。

今年のレポートでは、2つの試合の流れをお伝えする中で技術委員会からのコメントを交えさせていただいた。技術委員会から指導者や保護者の皆さんにお願いしたいことは昨年のレポートの最後にまとめている。八王子協会HPの【委員会】から【技術委員会】をクリックして頂ければ、昨年のレポートも読むことができるので、指導者・保護者の皆さんには是非、目を通していただきたい。今回は会場設定の関係で、保護者の皆さんと同じサイドで観戦をさせていただいたため、4チームのベンチワークを細かく見ることはできなかった。しかし年々ベンチからコーチが大きな声で子ども達を叱責したり、具体的な指示（シュート！、出しておけ！、蹴っておけって言っただろう！etc.）をして、子ども達自身の判断の邪魔をするような場面は少なくなってきたように感じた。逆にどのチームも子ども達自身がチームメイトに具体的な声を出して、プレーをより良く進めようとする

る場面が見られた。八王子サッカー協会技術委員会のスローガンは“八王子から世界へ羽ばたく子どもを育てよう”である。世界で活躍のできる創造的で逞しいプレーヤーを育てるために、練習では質の高いトレーニングメニューを提供して、ジュニア年代で身に付けるべきボールコントロール技術と個人戦術を繰り返し教え、試合では大人のサイドコーチングは極力少なくして、子ども達がコーチに頼らず自分で判断のできるプレーヤーへと成長できるよう、見守っていきましょう。今回試合の見ることのできなかつた、白百合SCと小宮SCを含めた4チームが、それぞれのチームの特徴をさらに伸ばして中央大会で活躍してくれることを期待している。

※このレポートは試合を現地で観戦しながらメモを取り、記憶をたどりながら何日間かけてまとめたものです。ビデオで撮影して確認をしたわけではないので、背番号が間違っていたり、プレーの流れも正確ではないかもしれません。試合の正式な記録ではなく、あくまでも技術委員会からの見解を述べるためのレポートとしてお読みください。